

今井中通信

教育目標

- ◎ 心身の健康
- ◎ 自他の尊重
- ◎ 生き甲斐の発見

前期後半がスタートしました

～夏の出来事から考えること～

校長 小林 格

38日間の夏休みが終わり、学校には生徒たちの元気な声が戻ってきました。毎年、酷暑に関するニュースが続く中で、それでも今年の夏は、東北の太平洋側、関東、東京近郊などで、最高気温が30℃前後にとどまり、夜はエアコンなしでも過ごせるような、ホッと一息つける日が数日間ありました。また、少しさかのぼって6月の上旬や下旬なども、最高気温が25℃に届かない日が一週間以上も続き、「梅雨寒（つゆさむ）」を体感する日もあり、予想外に涼しさも感じられる夏ともなりました。

ところで、地球には数万年単位の気候の波があると言われています。しかし、今の温暖化は人間が二酸化炭素（CO2）などを排出しすぎたことで、その波を急激に変えてしまったと言われています。壊れたサイクルは、異常気象として私たち人間に返ってきます。便利な生活を守りつつも、地球に負担をかけない生き方を一人一人が考える時期に来ていることに変わりはありません。

例えば変則的な動きをした台風15号。これも、そうした地球の温暖化等の影響が少なからずあったと言われ、千葉県に豪雨をもたらしました。災害時に命を守る行動の大切さ、そしてあらためて地球の環境を考えるきっかけともなりました。

また毎年の記述となりますが、夏休み中の8月には自然災害以外にも必ず思い出さなければならぬ話題が報じられます。それは6日の広島、9日の長崎への原爆投下、そして15日の終戦日など戦争に関する内容です。当時の悲惨な状況や人々の切ない思いなど、胸が痛くなる報道は毎年繰り返されます。現在の平和な日本で過ごすことができるありがたさや、惨劇を二度と繰り返さないための教育の大切さを考えずにはいられません。私たちは戦争を繰り返してはいけないこと、平和を大切にしなければならないことをしっかりと受け止める必要があります。

そこで、私たちが身近なことから何が実践できるか、考えてもらいたいことを三つ挙げます。一つ目は「まわりの人に思いやりをもって接し、相手のことを考えて行動すること」。二つ目は「どんな事にも、みんなで協力して、努力する姿勢を惜しまないこと」。三つ目は「毎日学校へ通えていること、毎日ご飯を食べられていること、そういう身近なことへの感謝の気持ちを忘れないこと」です。自分と自分の身の回りの「小さな平和」をつくっていくことが「大きな平和」につながることを願います。

いよいよ前期の後半がスタートしました。普通に生活できることがいかに幸せなことなのかをもう一度認識し、勉強に行事に様々な学習・経験を積み上げてもらいたいです。